

平成 29 年度 第 12 回西区自治協議会会議録

日時：平成30年3月22日（月）午後 3：00～

会場：西区役所健康センター棟 1 階大会議室

（岩脇会長）

ご苦労様でございます。29 年度第 12 回目の最後の定例会になります。今日は議題に入ります前に、本日篠田市長より、2018 年新潟市の取り組みについてお話をいただきたいと思っております。市長の説明はおおむね 25 分程度です。その後も質疑応答も含めて、全体でおおむね 1 時間、午後 4 時ごろまでの予定としております。なお、質疑応答につきましては、本日は自治協委員との懇談の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただきます。それでは市長、よろしくお願いいたします。

（篠田市長）

皆さん、こんにちは。今日は自治協の場をお借りして、新年度新潟市の取り組みということでお話をさせていただきたいと思っております。まずは皆さま方、日ごろから新潟市政に対し、そして西区政の運営に大変なご尽力をいただいていることについて、感謝申し上げます。また 1 月から 2 月にかけて大変な大雪ということでした。平成の最悪の冬というのがこの冬の状況でして、特に西区の海の近くに 24 時間足らずで 85 センチという経験したことのない大雪で、皆さま方にも大変ご迷惑をおかけしたと思っております。除雪業者の方も大変頑張っていたとは思いますが、なかなか新潟の除雪ということでは手が回らなかったということで、ご迷惑、お詫び申し上げます。

今除雪の費用が 100 億を超えるという状況になっています。これまでの過去最高が 50 億ちょっとということだったので、その倍以上になるのではないかと。新潟県さんのほうは 130 億円代という数字が出ていますが、大体新潟市と新潟県の管轄する道路は一応同じぐらいということで、例年ですと向こうは積雪地域が多く、こちらは雪が少ないということで、除雪費用に大きく差が付くのですが、今回はあまり差が出ないという状況と思っております。国のほうにこの状況をしっかりとお伝えして、少しでも多くしていただきたいと思っております。年度末、ぎりぎり、年度明けに精算ということになるかもしれません。またしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

それでは着座の上、新年度 2018 年新潟市の取り組みという、この資料に基づいてご説明させていただきます。これまでの振り返りでございますが、新潟市は 2005 年に大合併をして、それから 10 年間、合併建設計画にかなりしっかりと取り組んできた。もちろんその前に黒埼部分については黒埼の大合併から 10 年間やってきたという状況です。基金もかなり取り崩しながら、少し前のめり的にまちづくりを進めてきた。基金残高は 33 億円に減少したということでございます。そういう状況の中で、予算編成当初ということでありまし

たが、財源不足 119 億円というものが焦点化され、皆さま方にもご心配をおかけしたのではないかと考えております。新年度の予算編成の大きな目標。1つは収支均衡を図ると。基金を取り崩してまちづくりを進めてきたわけですが、これからは基金を積み増していくという方向で、収支均衡を図ってまいりたいと思います。

また市債残高の抑制。そのためにはプライマリーバランス。決算段階で黒字にしていくということで、それも市債残高の減少に充てていきたいということです。そのために内部組織の改革、あるいは事務事業の洗い出し、借金返しのための公債費の積み立て。これは国モデルよりも厳しくやってきたのですが、積み立てルールを変更させていただくということに取り組みながら、市民サービスへの影響を最小限にしていきたいということでございました。

次のページですが、新潟市は行財政改革に取り組み、職員の適正化を進めてきましたが、新潟市の特徴として1区当たりの人口が一番少ない、人口当たりの区役所の数が多いということ、あるいは公立、私立の保育園の割合を見ますと、新潟はほかに比べて公立保育園の割合が高いと、さまざまな特徴があるわけですが、その中で全体の職員総数、同規模の政令市に比べると 470 人程度多いということになっております。これを ICT を活用し、またアウトソーシング、外注なども図って、これからは職員を適正化してまいりたいということでもあります。出張所もずいぶん業務量に差がある。区役所も人口 17~18 万の所から 5 万以下のところまであるわけですが、それが今までは割と組織面で同じような形でやってきた。これも今後は少し考えさせていただくことに踏み込んでいきたいと思いません。

その下のコマであります。事務事業点検 1,194 事業でやらせていただいて、その見直しの約 46 億円ほど見直させていただいたということでもございました。次のページがそういう作業をやりながら編成した 30 年度当初予算、総額は 3,802 億円ということでもあります。対前年度比 173 億円のマイナス、4.4%減少ということで編成いたしました。内訳は扶助費はやはり増加が続くということで微増になっております。普通建設事業はかなり大きなマイナスということでもあります。これは2月の補正予算と一体的に推進をしていくということで計算させていただくと、前年度に比べてそれほど大きなマイナスではないと。新年度は新潟市周辺整備がちょっと小休止いたしますので、その部分が 20 億円程度減少という形でございます。維持補修費はしっかりと積んでいると。プライマリーバランス。先ほど申し上げたように決算段階で7億円の黒字にし、市債残高削減を達成していく。また基金の積み立ては新年度わずかでございますが、2億円ほどは積み立てるということで、収支均衡を達成したいと考えております。

平成 30 年度新潟市開港 150 周年の記念の年度になるということであり、また持続可能な財政を構築していくということが大きな土台であります。そして安心と活力、この2つの両輪を回して、政令市新潟の拠点化とまちづくりを前進させたいということでもございます。

1枚おめぐりいただいて、開港 150 周年の記念事業はそこに書いてあるように、7月14日から開幕する「海フェスタにいがた」。これがキックオフイベントという形になります。

例年ですと海フェスタには秋篠宮殿下、妃殿下においでいただけるということで、キックオフにはふさわしいのではないかと考え、また同じ7月14日、万代島の旧水揚場跡地、いわゆる通称「大かま」であります、そこを会場にして「水と土の芸術祭 2018」を開催していくということでございます。これがメイン事業という形になります。その下にちょっと細かくて恐縮なのですが、開港150周年のスケジュールが書いてあります。本当の開港記念日は来年の1月1日ということで来年の1月には開港記念式典を開きたいということでございます。

そして次のページですが、新潟駅連続立体交差事業を進めているわけですが、この高架駅第一期開業を4月15日に迎えるということで、この日からは同じホームで、こちら側には新幹線、向こう側には特急いなほなどの在来線が着いて、水平移動で乗り換えが可能になります。また2カ所の踏切も撤去されて、南北分断されていた市街地の一体化が進むと、新潟のまちづくりが加速する絶好のチャンスということです。

これからが平成30年度の新潟市の取り組みということで、1枚おめくりいただいて、3つの都市像ごとに主なことをご説明しておきます。まずは安全協働都市の分野です。地域で医療、介護が受けられる、いわゆる地域包括ケアシステムの推進をしていくことでもあります。その新しい支え合いのしくみも作っていく、そのための会議推進委員の活動を強化してまいります。さらに旧新潟市では「まごころヘルプ」という有償ボランティアがあったのですが、この有償のボランティア活動も全域に広げていきたいと思っております。またスペシャルのテーマとして認知症対策ですが、初期に発見して、初期に集中支援する。そんな全市展開を2チームから4チームに増やしたいということでもあります。

次のページが出会いから子育てまで切れ目のない支援をしていくということであります。まずは出会いと結婚の支援ですが、特に経済面で結婚にいまひとつ踏み切れないという方たちの背中を押す、新しい結婚生活への支援制度も作らせていただきました。また私立保育園などの建設費用補助拡充と、新潟市はずっと待機児童ゼロを続けてきたのですが、この1～2年、年度替わりあるいは年度途中で0～1歳児を中心に何人か待機児童が出るという状況になっております。これを改善していくと。また放課後児童クラブの受け入れ活動も充実してまいります。そして子ども食堂、子どもの居場所が各地で立ち上がっているので、その子ども食堂が持続可能になるように支援をしてまいります。にいがたっ子すこやかパスポートは民間と協力して、中学生以下まで対象を拡充するというところでございます。

その下のコマが教育であります。新潟らしい教育の充実。まずは全ての子どもたちに農業体験と食育という「わくわく教育ファーム」を一層推進してまいります。そして「新潟の良さを伝え、愛着を育む教育推進校」、「大好きにいがた体験授業」を小中学校から中等教育学校、あるいは市立高等学校に拡充してまいります。さらに働き方改革の中でも、教職員が非常に忙しいということでもあります。学校事務支援員あるいは部活動指導員を配置をして、教職員の多忙化を何とか解消に向けていきたいと思っております。

また政令指定都市の学力がランキングで発表され、新潟市の場合は小学生は4つの分野

で3つがトップということでした。中学生はそれよりはランクダウンする。ここをこれからかさ上げしていきたいと思っております。

また体力についても、今年度から政令指定都市のランキングが発表になり、新潟市は小学校は男女ともトップになります。そして中学校は男子が1位、女子が2位だったと思いますが、トップクラスということでもあります。

次のページからが環境健康都市です。超高齢社会の中で、健康寿命の延伸がますます重要だということでもあります。今年度を健康寿命延伸元年と位置付けて取り組んでまいりました。新年度からは、企業、団体との連携も深め、健康経営の推進を支援していくということでもありますし、新潟市民は塩分を取り過ぎだと、「ちょいしおプロジェクト」にも力を入れてまいります。さらに中学校区ごとに見える化した健康度に基づき、地域課題に応じた取り組み、実践をしていただき、今年度初めてでございましたが、地域版のいがた未来ポイント、健康寿命延伸アワードのグランプリと準グランプリを選定させていただき、先日表彰させていただいたということでもございました。

次のページがまちなかの活性化ということですが、昨年の8月、中央区役所をNEXT21に移転いたしました。その後人の流れがだいぶよくなってきたというお話が出ております。さらに大和跡地再開発を支援していき、その中で市役所の一部機能、これを仮称であります。市役所を「ふるまち庁舎」に3階から6階、移転をしたいということでもあります。また地域それぞれのまちなかを支援するために、魅力ある店舗づくりを支援してまいります。その下はバスです。新バスシステム。これまで10年間で40%利用者が減ってきたわけですが、新バスシステムBRTを開業して以降、初年度は0.8%でしたが、微増に転じました。2年目は2.5%、さらに前年度を上回ったということで、持続可能な公共交通、バス交通の土台を構築できつつあると思っております。

次のページが健康づくりとまちづくりを連携させる健康都市づくり、スマートウェルネスシティであります。これについてはやはり歩いて楽しく自転車や公共交通で便利に移動できるまち、そういうまちは市民の方が歩く1日の歩数が多いということでもあります。今新潟市は東京の方と比べると、1日の平均歩数が2,000歩ほど少ないということですので、今後さらに新バスシステムを充実させ、区バスなどのバリアフリー化、さらにシニア半わりを定着させていく。そしてJRには2つの新駅、これをぜひ実現させたいということで、公共交通を強化してまいりたいということでもあります。

次のコマが、女性や若者らが働きやすい環境づくりということで、働き方改革の推進、いい取り組みをしている事業所の表彰をさせていただくようになりました。またワークライフバランスに配慮していらっしゃる企業にはなかなか人材が集まらないという状況です。事業を継続、発展させるためにもワークライフバランスが重要だと、またUIJターン、市内就労をより充実している職場を紹介してまいります。

次のページが12次産業化であります。6次産業化に加えて、子育て、教育、あるいは福祉、特に今農業と福祉の愛称がいいと、農福連携ということが非常に盛んになっております。そんな6つの分野で活動をなさっている12次産業化の優良事業を表彰させていただき

ています。前年は秋葉区の「アキハロハスアクション Akiha 森のようちえん」の取り組み。そして農業戦略特区の中の「たくみファーム」。こちらは精神障がい者を含む障がい者を雇用して、G-GAPなどを取っていると大変素晴らしい取り組みを表彰させていただきました。

また創造交流都市の分野、3番目の分野になります。1枚おめくりいただいて、まずは持続可能な農林水産業の確立ということであります。稼げる農業を目指す。そのためにはあまりにも米依存に偏っている農業では、なかなか稼げる農業にはならないと、高収入な園芸作物を導入する。魅力ある農業の担い手を育成していく。そんな元気な農業応援事業というものに、少し変えさせていただきました。米の輸出なども引き続き取り組んでいくということであります。

その下が農業戦略特区です。規制緩和を使った企業活動は順調に進展しております。また農家レストランも3軒、2年目に入っても大人気が続いているという状況です。そして次のページが、今度は規制緩和を使っていないのだけれども、どうせICT農業をやるのなら農業特区の新潟市でやろうということで、例えばNTTドコモ、地元のベンチャー企業などと組みまして、水田センサーあるいはドローン、そしてICTコンバイン、これらが越後平野で活躍しているということであります。これらをもっと伸ばしていく。そして外国人材の活用ですが、農業分野でも活用が認められましたので、さらに農業戦略特区も伸ばしていきたいと思えます。

その下のコマが内発型産業の育成創業支援と、今は人手不足への対応もあって、設備投資意欲が非常に強く、生産性向上に資する設備投資、これに補助をさせていただくということであります。また中小企業の事業承継を可能にするために、IPC財団に専門人材の配置を強化してまいります。ICT企業向けオフィスビルのイノベーション、この支援制度の創設を目指しました。さらに新たな工業用地の確保のために8つの地域で工業団地づくりに入るとのことです。

次のページが航空機産業であります。21世紀を支える新しい産業の柱になり得るということで、お隣の西蒲区、こちらはエンジン関係、そして南区は機体関係、今共同部品工場全ての区画が埋まったということで、本格的な受注に入っていく。それをまた支援してまいります。さらにICTを活用した実証事業など、これをしっかりと相談、あるいは意見交換をする窓口を明確化するというところで進めてまいります。

その次は創造都市であります。まずは真ん中の食文化創造都市ですが、食と農と文化を融合させる食文化創造都市を確立しようと考えております。さらにガストロノミーツーリズム、食文化ツーリズム、このシンボルがレストランバスということで、これもまた活用していきたいということであります。日仏友好160周年の節目になるということで、パリで行われる行事に新潟の伝統文化にぜひ参加してほしいということで参加をいたします。

次のページではまた開港150周年でございます。来年は新潟県が国民文化祭を開催し、JR各社が新潟に行きましょうキャンペーン、デスティネーション・キャンペーンをやっただけだと。この勢いを2020年の東京オリンピック、パラリンピックに向けていき

い。また残念ながら一時停滞をした空港港湾、ここをまた再活性化する。この取り組みが新潟県と県内市町村が相当がっちりスクラムが組めるようになってきたということで、頑張りたいと思います。その下は防災・救援首都、平時の拠点化も進めていきたいということでございます。

次のページが東京オリ、パラ 2020 年ということですが、まず文化プログラムですが、新潟が先頭になって推進していきます。そして東京オリンピック、パラリンピックのときにも、合宿、直前合宿などを新潟に受け入れたいということで動いているのですが、平昌冬季オリンピックは大変な盛り上がりでしたが、新潟で合宿していただいたロシアの選手ですが、まずはフィギュアが団体戦で銀メダル、そしてまた個人戦の前に新潟のアサヒアレックスアイスアリーナで最終調整をしていただいて、その結果ザギトワ選手が金メダル、メドベージェワ選手が銀メダルと、金銀ワンツーフイニッシュを決めていただきました。新潟は素晴らしいおもてなしと準備をしてくれたということで評価をいただいております。

さらに東京オリンピックのときには、東京はもう大混雑ということなので、東京を滞在本拠地にするよりは、新潟に滞在本拠地を置いていただこうと、そして見たい競技のときだけ東京へ行っていただく、「新潟プラス・トーキョー」運動を全県で展開をしたいということなんです。

その下のコマが観光面であります。観光やおもてなし体制をさらに構築してい、そしてインバウンドも本格的に誘致に取り組んでまいります。さらにクルーズ客船も、今年は前年より 5 回増えて 13 回と、特に西港の伸びが目立つということでもあります。

次のページからが新潟暮らし創造運動ということですが、まずは生活コストを見える化するサイトの構築です。初任給だけ見ると、やはり東京のほうがいいので、つい東京を選んでしまいがちですが、しかし生活コストはどうなのかということ、これもしっかり比較をいただきたいと思います。また「NIGATA LIFE」をリニューアルして、新潟に U I J ターンをされた方の体験談などを知っていただきたいと思います。

次のページが H A P P Y ターンモデル、U I J ターンのモデル第 1 号、西蒲区の越前浜、第 2 号が秋葉区の小須戸地区と、そしてこれから頑張りますという移住推進モデル地区の手挙げ方式でございます。こちらは秋葉区の朝日地区と金津地区に手を挙げていただいたということで指定させていただきました。その下の地図は人口減少です。かなり人口動向が地域ごとに異なると、この色の濃い所が人口減少が厳しいのですが、それが旧新潟市のまちなか、新潟島にもあるということでもあります。今後この地域特性をはっきりと踏まえた上で、より活動を具体化していただきたいということでもあります。

では新潟のまちづくりはどのような方式でやるのか、次のページであります。地域全体のことは新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組ませていただきます。先ほどの工業団地も、どこでどういう規模をつくるか、これは市全体で決めさせていただくと。区については区ビジョンまちづくり計画がございます。それよりもさらにきめ細かく中学校区単位を中心に地域課題に応じた取り組みをより本格的にやっただけと。地域カル

テによりまして、地域の人口動向を見える化いたしました。それを踏まえてこんな補助メニューがありますということも見やすくとりまとめさせていただきました。さらに各地域の選考優良事例もとりまとめて参考にさせていただき、地域における取り組み、実践をより評価いただきたい。区役所ももちろんしっかりと一緒になってやらせていただきたいということでもあります。

最後であります、新年度持続可能なまちづくりへ新たな船出をしたいということでございます。これからは持続可能な財政をしっかりとつくって、地域、産業界、大学生の皆さん方など、全ての力を結集してまちづくりを推進したいということで、新年度新たな船出の年と設定させていただきました。

以上で私の説明、大変速足で聞き取りにくかったかもしれませんが、説明を終わらせていただき、これから皆さま方からご質問、ご意見をいただいて相互理解を深めたいと思っております。大変ありがとうございました。

(岩協会長)

市長、ありがとうございました。それでは皆さま方よりご意見、ご質問をお願いしたいと思えます。冒頭でお伝えしましたように、本日は自治協委員と市長の懇談の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただきます。できるだけ多くの委員からご発言をいただきたいため、ご意見、ご質問は簡潔にお願いしたいと思います。ご発言したい委員はいらっしゃいますか。鍋谷委員、お願いします。

(鍋谷委員)

3号委員の鍋谷でございます。昨日の新聞で市の2018年度の予算成立の記事が載っております、その中で廃止・休止する主なイベントというのがあります、市民健康福祉まつりが取りやめになったという記事がございました。私は今年度このイベントに参りまして、大変有意義だと思いつつも、これだけ大規模なイベントにどれだけの経費が投入されているのかなと思って帰ってまいりました。これはちょっと違う話になりますが、私は西総合スポーツセンターに時々汗をかきに行きます。前は故障でなかなか機械が使えなかったのですが、2月に新しい機具がいくつか入り、今通っているメンバーは喜んでます。イベントもよろしいのですが、お金がたくさんあるときにはよろしいのですが、私はこれからもっと継続的に市民が喜んで参加していける、そういうものに経費を投入していただきたいと思えます。

継続ということからもう一つあるのですが、13コマに安心して子どもを預けられる環境づくりというのに、私立保育園等への建設費補助というのがあります。市長さんが待機児童ゼロとおっしゃいました。やはり市も大変な努力だと思いますが、よく耳を澄ませますと、本当はゼロではない。潜在的な待機児童は結構いる。もうあきらめて手を挙げない、手続きをしないという人がいるということも聞きます。私はだからと言って、施設を拡充したり、新設をしていくということは、少子化がこれから始まり、今新潟市の保育園では

なくて幼稚園のほうは定員に満たないという実情もある中で、本当に施設をただ足りないからと言って拡充ということは、市長は考えておられないと思いますが、この辺りは非常に難しいところだと私は思います。将来に継続して本当に必要かどうかということ。しかし、待機児童が増えるということは困るわけなのですが、今は私立ですが、私はよその都市と同じように、企業がもっとうるさくをセッティングしていただけないかなと、西区では皆さんご存じでしょうけど、済生会第二病院が、なでしこつばみ保育園を設置しております。第二病院に勤めている職員の方の子どもだけでなく、一般にも応募して募集をかけております。今朝電話して聞きましたら、定員が30名のところ、人気があって今面積から考えて法律に違反しない最大限で36名の子どもを預かっているといいます。私はこれから工業団地の話もありましたが、本当に女性の働き方のプラスにする、働く所へ連れて行ってというのが非常に有効だと思うので、市長からもそういうことにもうんと後押しをしていただきたいと思います。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。市長、お願いいたします。

(篠田市長)

ありがとうございます。今お話があったように、これから限られた予算でどのように持続可能な財政をつくりつつ、また選択と集中をやっていくかと。お話があった健康福祉まつり、これも素晴らしい福祉と健康を連動させるいい取り組みだったということで感謝をしているのですが、皆さんを福祉の施設の方も一堂に集まっていたら、大々的にということ、これを少し今度は変えさせていただいて、それぞれの地域でちょっと小さめなイベントがあるときに、地域の福祉施設の方がそこに出席するというような形にかじを切らせていただこうと。また場合によっては水と土の芸術祭もそうですが、そういうイベントがあるときに出席コーナーを作って、そこに希望される福祉施設の方、あるいは新潟が誇る農産品などを、これは無料でということですが、展示をするスペースを作っていくというようなことで、多彩なイベントと地域の福祉施設、あるいは地域の農産品、地域の財産をアピールする、そんな組み合わせをさせていただきたいと思っています。

そして西総合スポーツセンター、そこに限らないのですが、やはり健康づくりのところはできるだけわれわれ健康寿命延伸ということをお願いしている立場で言えば、きめ細かく機器の更新などもやらせていただきたいと思っています。

そして私立保育園ですが、基本的には今新潟市は公立の保育園の割合が他の政令市に比べて高いと申し上げました。今後、老朽化した公立保育園、これを建て替えるというときに、国の支援が出ないことになってまいりましたので、例えば公立が近くに2つある。それだったら1つにまとめて、そして公立保育園だったエリアに私立をつくっていただくというようなことで、事業費はあまりかからずに、保育する方の子どもの数が増え、そしてまた多様な保育ニーズが提供いただけると。私立、その中でも企業向け保育園ですが、

これも私立の中に入れさせていただいておりますが、大変素晴らしい企業保育園があり、またそれを余裕がある限り地域にも開放するという取り組みもやっていただいているので、そのようなことをアピールし、また企業から協力をいただけるようにしてまいりたいと考えております。幼稚園については、残念ながら定員割れをしている所もございます。これからは認定こども園をより、保育園と幼稚園の協力関係をより強化にさせていただき、さらに新しい施設をつくる時に、将来子育てニーズが少なくなったときに、他に転用できるということも重要なので、そんな視点も入れながら、超高齢社会は当分続くわけですので、超高齢社会にも転用可能な、そんな施設も考えてまいりたいと思っています。ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。他に何かご意見。大谷委員、お願いいたします。

(大谷委員)

1号委員の大谷一男と申します。市長さんもお読みになられたかもしれませんが、河合雅司さんという方がお書きになった『未来の年表 人口減少日本でこれから起きること』という本の中で、日本の人口が急激に減り続けることを驚愕な内容で書いております。現在の日本の総人口は1億2,700万人。50年後には8,800万人。100年後には5,000万人。机上の計算によりますと1,000年後の日本の人口はなんと2,000人。日本人自体が絶滅危惧種。子どもが生まれなくなった社会を待ち受けるのは国家の消滅であると、このように書いております。

このような状況下にあって、全国の自治体、県も市も町も村も、こぞって人口減少対策を金太郎あめのように言い出しております。7年後の東京都もついに人口減少に突入し、東京も4人に1人が高齢者になるといわれております。全体のパイが減っていく中で、本当の意味の人口減少対策があるのだろうか大変疑問に思っております。

新潟市の人口減少に対応した地域づくりの一つとして、移住、定住の促進を打ち出しております。これを否定するつもりはありませんが、新潟市全体をふかんしてみますと、果たして効果があるのだろうか疑問に感じられます。人口減少のマクロ的な方向が決まっているわけですから、この際は魅力ある県と新潟、魅力ある地域づくりにシフトした施策を講ずるべきではないかと思えます。結果として人口の流入を果たし、結果として人口の流出を抑えられる、そんな魅力ある都市づくり、魅力ある地域づくりにすべきではないかと私は思いますが、市長のご所見を伺いたいと思えます。

それともう一つ続けて伺いたいと思えます。4年前でしょうか。市長に新潟燕線の整備促進についてお願いいたしましたところ、早速に交通量調査それから測量、地質調査、予備設計図の作成などをご対応いただき、目下順調に進んでいるのではないかと思っております。関連して新潟中央環状道路も整備促進が進み、一部開通を見ております。これに接続する新潟燕線の西区内の縦軸の幹線道路としての重要度が増しつつあります。つきまし

ではできるだけ早く黒鳥地区内の整備促進を進めていただきたいと思います。今後のめどについてお話いただければ幸いです。以上2点、ご見解をお聞かせいただきたいと思います。

(岩協会長)

ではお願いします。

(篠田市長)

ありがとうございます。人口減少に特効薬はないわけですが、一番有効なのは、本当は子どもの数を増やすと。これがじゃあどうすればできるのかと、ここでまた特効薬がないというところに戻ってくるのですが、子どもさんの数を増やして地域も持続可能になっていくというのがベストシナリオなのですが、新潟の場合、出生率も相当区でばらついていくということも分かり、また人口減少を非常に気にされている。そしてそれに対応してうちは頑張るのだと、小学校をなくさないように頑張るんだというところでU I Jターンもやったその成功事例が越前浜ということだと思います。越前浜の取り組みはどこでもできるものではありませんので、U I Jターン一辺倒では駄目だと。そうすると地域の特性を踏まえて、婚活、まず出会いの場をつくり、それから地域で若い男性、女性を応援していくのだということ、これぐらい私らはやっているし、まだやれるよというところは、そこはどうか頑張ってもらいたいと思いますし、交流人口も非常に重要なので、魅力ある地域をつくっていく。うちはこういう特色があるのだから、その魅力を伸ばすと、これも大変ありがたい取り組みだと。そういう辺りを人口動態をしっかりと見ていただきながら、うちはどこを重点的にやろうかということで、金太郎あめにならないように取り組んでいきたいというのが基本でございます。

これについて、やはり残念ながら首都圏の吸引力がさらに強まって、昨年も社会減になったと、確定値が出ていないのですが社会減は確実だということなので、よりわれわれ地域の魅力、そして地域でできること、それを一緒になってやらせていただきたいということで、人口減少を少しでも緩やかにしたいと思っております。

(笠原区長)

今ほどお話いただきました新潟燕線、黒鳥バイパスの件ですが、これもお話のとおり、平成26年度でコミ協さまのご要望を受けまして、27年度から路線測量の事業を実施しているのはご承知と思います。また昨年度と今年度にわたりまして、地元の皆さま方との勉強会を開催いたしまして、皆さまの意向を確認いたしますとともに、南側と北側の地質調査の実施済でございます。今後でございますが、完成までには詳細設計ですとか用地買収、候補地などの作業も当然必要でございます。またこれに対しましては、事業と費用を要しますが、関係機関や地元の皆さまとの調整を早期に行いまして、事業を進めてまいりますので、まずは事業がもう動き始めているということをご理解いただきました上で、今後も

ご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。他にご質問、ご意見等はございますでしょうか。渡邊委員お願ひいたします。

(渡邊委員)

3号委員の渡邊でございます。ただいまの市長さんのご説明の中において、16 コマだと思ひます。昨年は健康寿命元年という説明が出ておりました。今年はただいまの説明によりますと、健康寿命の延伸で、さまざまな施策がなされていくということで、大変うれしく思ひます。私は昨年12月10日の市長地域ミーティングにおいて、特定健診実施率の向上について、何点か意見を申し上げたと思ひますが、30年度は定期健診の受診率アップの施策というものは組まれているのか、伺いたひと思ひます。

(篠田市長)

ありがとうございます。特定健診受診率向上も健康寿命延伸の三本柱の1つに入れさせていたひしております。特に昨年度は中学校区別で健康データを見える化をして、受診率が一番低いのは秋葉区の小合中学校区ですということも伝えさせていただき、そんなことは私は知らなかつた。そうであればもっと頑張りますというお答えもいただき、今年度はモデル地区になっていただひしているという状況でございます。さまざまな受診を受けやすいような受診券を見やすくしたりとか、いろいろな改善も行わせていただき、その中で何が有効なのか、これを年度末で確認をして、また新年度新しく、より受診率の向上に役立ちそうなものをどんどん取り入れていきたいと思ひております。これについては新潟市の市政改革推進本部というものをつくつて、その中の一つのテーマが受診率のアップということで取り組んでおりますので、新年度も新方式がいくつか出て打ち出せると思ひております。こういうものが有効だと思うよということ、今までも聞かせていただひしているのですが、また最新のご知見でお聞かせいただければ、参考にさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。三富委員、お願ひいたします。

(三富委員)

公募委員の三富と申します。市長さんにちょっとお伺ひしたかつたのは、寺尾中央公園の現状のあり方についてお聞きしたいのですが、この間見てまいりましたら、この自治協議会で見ることがあつたのですが、倉庫があるのですが、そこに非常食が600食ぐらいただつたと思ひます。ところがあそこは2万5,000人が避難するための用地として、第1避難

場所と指定しているようにお聞きしているのですが、そんなに少なくないのでしょうかということ、何かお聞きすると予算がないから駄目なのだと。これは私の勝手な意見なのですが、それを毎年われわれ住民に対して提供していただければ、わたくしどもで買って用意すれば、もっと安心できるのではないかと思ったりしています。

あとは賑わい性です。ほとんど人がいないのです。昔私が知っているときは電車があったりしまして非常に賑わっていたのですが、そういう子どもたちの遊ぶようなロープがあったのですが、腐っているからみんな取ってしまう。そんなことがあるもので、あそこについて市長はどんなふうにお考えになっているかお聞きしたいのですが。

(篠田市長)

非常食については、市としての基準がありまして、予算がないからその分が減りましたということにはなっていないと思うのですが、これについては近く新潟市全体の防災会議も開かれ、その中でまた確認をしていくことにしております。全市としてはそういうことでやっているはずです。

(笠原区長)

今ほどのお話の件でございますが、備蓄につきましてはご承知のとおり各小中学校はじめ、避難所で必要な備蓄というのは各分散配置しております。お話の寺尾中央公園につきましては、一次避難場所ということで一時的な避難場所でございます、避難所はまた別に、そこから避難所に避難するということございまして、なおも私どもの組んだ予算の中で倉庫をつくり、必要というか、一時的に必要な備蓄についてはそこでそろえておくというところで、避難所とはまた別と考えていただけるといいと思います。

(岩協会長)

ほかにありませんか。高島委員、お願いいたします。

(高島委員)

1号委員の高島です。日ごろの市政へのご尽力大変ありがとうございます。ご苦労さまでございます。私からは先ほど大谷委員からもお話がありました、いわゆる人口減対策。特に若者の流出というのが大きく問題に取り上げられているわけですが、いろいろな対策を市としてもやっているのはよく分かっているつもりです。私は雇用の確保ですか、働く場所の確保が非常に大事なことのひとつだろうと思います。先ほど移住の話とか、また新潟市では大学誘致を一生懸命やっておられるとか、若者を外へ出さないようにということ、それから外から人を入れるということ。いろいろな施策をされているのは分かっているのですが、働く場所が移住されても新潟に本当に働く場所があるのかどうか。大学をいっぱいつくっても、若者がとどまるだけの魅力ある企業があるのかどうか。これは行政の取り組みどおりにならないことはあるわけですが、そういうものに行政がどういうふう

に関わっていくのか、ちょっと分かりにくい所がありまして、先ほど市長さんから8つの工業団地の用地を選定したというお話がありましたが、そんなことも絡めて企業誘致と新潟市長が率先して外部から、新しい企業を呼び込むようなことを、ぜひやっていただきたいと。やっていらっしゃるのだと、私が知らないだけでやっていらっしゃるのだと思いますが、いろいろなことを市長さんがやっておられて、また行政がこんな形で新しい雇用を確保しなさいというのか、その辺の話をお聞かせ願いたいと同時に、8つの工業団地候補を差し支えなければお聞かせ願いたいと思います。以上です。

(篠田市長)

やはりせっかく大学が充実していて、18歳人口は増えるのだけど、22歳人口が谷になっているのではないかと、残念ながらそういう状況、ほとんど全域でそうなっていると、これについて基本は22歳人口の谷を埋めるということが一番大事だと思いますが、やはり18歳人口の山をつくるということも、これも相当大事だと。データ分析で長野市が非常に18歳人口も減り、あそこは信州大学が大半が松本市にあるので、18歳人口のピークもつukれない。その長野市はやはり50年後、かなり人口減少がほかの金沢市、新潟市などに比べて大きいというようなことも出ているので、18歳人口のピークを高くするのも大事だと。しかし22歳人口の谷はなかなか、今その谷を緩やかにできていないじゃないかと、これもそのとおりのので、われわれはありとあらゆる手段を尽くして、多様な働く場をつくるということに全力を挙げていく必要があると思います。

幸い昨年までのアンケートで新潟市の企業が、大変投資意欲が高いと、拡張意欲が大きいということが分かりましたので、それに合わせて工業団地、工業用地の確保も昨年から本格的に取り組んできたということでもございました。とりあえず優先順位が高いあるいは同業関係の障壁が低い8つの地域をリストアップさせていただきました。大きく言えば、今建設中の中央環状道路、中央環状道路と放射状道路が交差する所です。これが一番開発のポテンシャルが高いということなので、そこを重点的にやっていく。あるいは東港などの港に近いとか、そういう特別な条件がある所を今8つ選定させていただいたということで、これは具体的にもう発表されておりますので、必要でしたら後でお届けさせていただきます。

そこに新潟にある企業が拡充していくと、これが本当に一番ありがたいのですが、もっと外から大きい企業を持って来られないかと考えています。また、聖籠町のゴルフ場になっている所、これは新潟市も一緒になって、できるだけ早くあそこに大きなものづくり拠点あるいは物流拠点ができないかなということで、これは新潟県も一緒に進めている状況です。あと本社の機能移転をすると国が支援するよということで支援制度もつくっていただいています。これは全国的になかなか実績が上がらないと。小松などの特別な事例はありますが、なかなか進んでいないのですが、これについてもやはりアタックはしていく必要があるということで、東京事務所などもその面で最大限活用していくという状況です。これもありとあらゆるネットワークを使わせていただいて、本社機能がこれが一番ありが

たい。研究機能はそれに次いでありがたい。部品でも高度なものが作れる製造拠点もありがたいということで、これは本当にありとあらゆるつてをたどってやっていく必要があると思っております。多様な働く場の確保、これは農業も含めて、今は若い人たちが農業生産法人で体験して、自分たちが農業をやるという実例も出ておりますので、農業も含めてありとあらゆる多様な働く場をつくっていききたいということで頑張りたいと思います。ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。時間も 55 分という予定でございます。私が意見を言うこともよろしいでしょうか。私から一つ、今の予算について説明を受けました。非常にご苦労した予算だと思っております。財源も不足している。その中で八方目配りしてやっている。お金がないということで、じゃあお金がどうしてないかということは、もう皆さん方すでに知っておられると思いますが、合併特例債の箱物の建設とか、新潟駅の橋梁化の推進とか、そういう公共的なものは約束事項で基金が不足している。33 億、10 年前は 330 億あったらしいのです。市政運営は難儀だなと思っております。今回みたいに除雪費 100 億円、国からも出てきます。全額私は出ないかと思っております。うちの自治会でも私どもは 30 万使っています。約 100 億円かかっています。そういういざというときの財源が私は基金だと思っております。ということで、これからは相当節約した今回の予算で私はやむを得ないと思っております。かと言って節約しただけではうまくないです。やはり経済の活性化も必要ですから、開港 150 周年、それはやはり必要。人を呼び込むために、ただ節約するだけでは駄目だと思っておりますので、そういう取り組みをいろいろな形で今説明を受けております。

それで私から、これだけのご説明をなさって、そしてやはりこれはちゃんとクリアするためには、責任を取ってもらわなくては駄目です。私は本当にこう思っておりますが、せっかく最後の結びに持続可能なまちづくり、新たな船出と、こういうふうに結を締めておりますので、こういうものをつくった大きな執行部としての責任がございますので、その辺をご理解していただきまして、これから市政運営に努めていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。もう時間が来ましたので、市長の最後のごあいさつということでございます。お願いいたします。

(篠田市長)

今日は限られた時間でございましたが、いろいろなご意見もお聞きして、そして最後の岩協会長さんのお答えにどこまでなるか分からないのですが、基本的にはやはり新潟市、基金は 100 億円程度に早く戻したいと思っております。そのためにはやはり一応自ら身を切る改革をしなければならない。その一つがやはり職員の適正化ということだと思っておりますので、これについては今大まかな目標数値を決め、そこでさらに公立保育園などは「えいやっ」とやるわけにはいきませんので、公立保育園、公立幼稚園、これはどんなふうに再

編させていきたいということは別途計画をつくるということで、行財政改革をしっかりと進めていきたいと思っています。

また一番わかりやすいのは基金。家庭で言えば、貯金がなくなったということなのですが、貯金が全てでもないということで、例えば借金がどうなっているといいますと、その借金もたちのわりといいものと、若干たちの悪いものが悪いものがあります。借金返しのための準備はどうかということで財務体質というものができあがるわけでございまして、これまで新潟市は借金返しの準備については、ほかの政令市、あるいは国のモデルより若干厳しめにやってまいりましたので、その分ルールを変更したら、今回40億円ほど何とかなりましたが、これがこれも駄目です、こっちも駄目です、そこで貯金も減りましたとなると、これは本当に大変なことなので、そこまで悪くはないということであります。しかし胸を張ってられるほどよくもないことも間違いないので、今後はやはり今回のようなことがあるので、基金はまず50億円、そして早期に100億円積むという形を目標を示してやっていきたいと思っております。今回の大変な除雪費についても、何とか工夫をしてあまり皆様これ以上心配をかけないようなことができないかということで、今国への支援も含めてお願いしているという状況でございます。

それでは、財政、これは基本的に厳しいことは厳しいですけども、持続可能な財政に向けて、土台はそれほどふらふらしていないということなので、これからまちづくりに向けて、やれることはしっかりとやっていきたいと思っております。そういう意味で新しい船出でございますので、その船出の後、こういうものが重要なのだということについては、よりしっかり、はっきり自治協さんでまとめていただき、区と相談、そして私もお話を伺うということで選択と集中の中でどういうものを選択していくべきか、またご納得いただける選択というのはどういうことかということ、話し合いしながら進めさせていただきたいと思っております。そういう面で財政を持続可能にして、持続可能なまちづくりをより推進していくという、転換の年が新年度だったなと言っていたように最大限頑張りたいと思っておりますので、皆さまからもまたご助言、ご提言をお願い申し上げまして、今日の意見交換が有意義だったことに感謝を申し上げてごあいさつにさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。(拍手)

それでは失礼します。ありがとうございました。

(岩協会長)

それでは皆さま方、ありがとうございました。

(岩協会長)

それでは引き続きまして、2の議事に入りたいと思っております。議事の(1)後任委員の推薦についてです。事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

それでは事務局からご説明させていただきます。失礼ですが、着座でご説明させていただきます。資料は右肩に当日配布資料1と記載させていただいたA4、1枚の資料になります。前回の本会でもご報告させていただきましたが、五十嵐小学校コミュニティ協議会選出の沢田委員より、心身のご事情から、3月末日をもって辞任願の届出がございました。また、新潟大学選出の嘉藤稜子委員が、このたび同大学院をめでたくご卒業されることに決まったことから、同じく3月末日をもってご退任となります。

区自治協議会委員の選任・委嘱は市長が行うこととなりますが、区民等の多様な意見と地域における諸課題への取組状況などを適切に反映できるよう、区自治協議会自らの推薦に基づき、委員を選任することと条例・規則で規定しております。

地域コミュニティ協議会選出の1号委員及び新潟大学選出の2号委員にあつては、団体等選出委員となりますので、後任委員を当該団体から選出していただくこととなります。

本日お配りした資料のとおり、推薦団体であります五十嵐小学校区コミュニティ協議会から、後任には同協議会副会長の岩沢孝金さまとの推薦いただきました。

また、新潟大学からは、同大学 教育学部 学校教員養成課程 学生の荒井実さまのご推薦いただきました。本日、本会で承認をいただければ推薦の手続きを進め、4月1日からの委嘱となります。

なお、任期途中での交代となりますので、任期は皆様と同一の残任期間、平成31年3月31日まで、岩沢さまの所属部会は沢田委員の第1部会を、荒井さまの所属部会は嘉藤委員の第3部会並びにプロジェクトチーム2を引き継ぐことを予定しております。事務局からは以上でございます。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、ご意見またはご質問等がございませんでしょうか。辞任申し出による交代でございます。なければ原案のとおり、市長への推薦をすることとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。ただいま異議なしとのこと。事務局は手続きを進めてください。お願いします。

続きまして3、議事(2)部会の状況報告でございます。概要を各部長より簡潔に報告していただきたいと思っております。また今回は各部会で実施した自治協提案事業の事業評価についても併せて報告をお願いいたします。それでは第1部会、大谷部長からお願いいたします。

(大谷委員)

それでは第1部会の会議概要をご報告いたします。所管分野は防犯、防災、自然環境、住環境等であります。3月7日、水曜日、午後3時から、第11回の会議を行いました。出席者は会議概要記載のとおりです。議事については平成29年度の防犯と防災に関する講演

会の事業評価とそれから平成 30 年度防犯に関する講演会の企画とそれから今後取り組む地域課題についての 3 点について協議をいたしました。

防犯と防災に関する講演会の事業評価については、評価書案を基にして修正すべき点や、追加すべき事項等について協議を行いました。協議の結果、原案のとおり本会に提出することを決定いたしました。なお委員から出された主な意見は、点線の囲み部分でございます。

引き続き防犯に関する講演会の企画案について、事務局から講師や会場等の調整状況について報告がありました。第 2 部会の健康寿命延伸に向けた講演会が 9 月 15 日の土曜日に決定したため、9 月 16 日、日曜日の連日開催の日程で講師との折衝を行うことにいたしました。次回の部会で最終の企画案をまとめて、本会に提出することを決定いたしました。なお現時点での概要案は点線の囲み部分に記載しましたので、ご覧いただきたいと思いません。

第 1 部会として、引き続き今後取り組む地域課題について、意見交換を行いました。何と言っても除雪に関する対応が中心となりましたが、第 2 部会がソフト面であるとすれば、第 1 部会はハード面の議論中心になろうかと思えます。災害時の対応と同じく、今回の大雪は、公助に全てを求めるのに無理があったという意見が多く語られました。自治体を中心とした共助と、それから自助努力も必要であるという意見がありました。また公助・共助・自助のほかにも互助の精神も必要であるという指摘もございました。今回のケースはやはり異常事態であったと判断されます。今後関係者から説明や報告の機会を持ちたいと思っております。

また空き家対策も話題になりましたが、引き続き議論をしてみたいと思っております。次回の協議は 4 月 13 日、金曜日、午後 3 時から、防犯に関する講演会企画を中心に協議したいと思っております。

続きまして資料の 2 をご覧いただきたいと思えます。第 1 部会の事業評価書をご覧いただきたいと思えます。平成 29 年度は防災講演会と防犯講演会を、それぞれ 9 月 17 日及び 9 月 18 日に記載をいたしまして、講師、講演テーマ、参加者等については、記載のとおりですのでご覧いただきたいと思えます。なお、事業の評価の欄をご覧いただきたいと思えますが、当日のアンケートの配布を行った内容をまとめたものでございまして、防災講演会は 220 名、有効回答率 78.6%。それから防犯講演会については 264 名で回答率が 88.0% ということでございます。「講演はいかがでしたか」という問いに対して、「大変参考になった・参考になった」という意見が、防災の場合は 88.7%、防犯に関しては 94% いくような高いデータを示してございます。それから「今後も地域課題テーマの講演会があれば参加したいですか」という問い合わせについては、それぞれ 90.9%、93.6%と、高い市民の関心があるということが分かりました。

なお、今後のテーマですが、やはりどうしても高齢者が対象になりがちですので、健康寿命とか第 2 部会との兼ね合いでそうした面がやはり中心になると思えますが、それにしても防災あるいは防犯についてもそれなりのニーズがあるようでございますので、引き続

きそれらの課題について検討してまいりたいと思っております。

「良かった点」については下の欄に書いてありますのでご覧いただきたいと思いますが、特に今回は抽選による入場券の配布方法を導入したことで、当日の受付が円滑に進んだということ。それから丁寧なキャンセル待ち対応につなげることができたという点、それから交通不便地域からの送迎バス等は、経費削減を図りながらそれを充当したという点が良かった点として上げられるのではないかと思っております。以上が第1部会の事業評価書です。

(岩脇会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、ご意見、ご質問等がございませんでしょうか。なければ、続いて第2部会の郷部会長、お願いいたします。

(郷部会長)

第2部会です。第2部会の所管分野は保健福祉、文化、教育等です。開催日時は平成30年3月6日、火曜日の午後から、ここの区役所303会議室で行いました。出席者等は書かれていますとおりです。

主な議事、1つ目が、平成29年度 幸齢いきいき講演会の事業評価について。この資料2にあります事業評価書に基づきまして、みんなで話し合いを行い、その結果、この内容に誤りないということで、本会に提出することといたしました。主な意見としましたが、今回司会を私たち自治協の委員の中で出していただいたということで、ものすごく運営が円滑に行うことができました。司会に充てる費用を送迎バスのほうにずらしていくことで、運営に活かされたので、参加者の満足度がとても高いものであったという意見がありました。

2番目、もう一つ、29年度の事業でありましたスポーツ鬼ごっこについての事業評価について話し合いました。これにつきましても資料の2に書かれている事業評価書を基に、みんなで検討を重ね、その内容に相違ないということで本会に提出することとなりました。委員から出された意見としては、推進団体「Oni Base Niigata」の活動により、区内の各小学校において、実施事例が増えている。聞くところによると、実施していない所が少ないというぐらい増えているそうです。それが単発の事業になっていたとしても、経験している学校が多いと。また未実施の学校においては、体験できるよう、今後も「Oni Base Niigata」を中心に、地域と連携しながらつなげていくというご意見が出されていました。

主な議事、3番目です。平成30年度の健康寿命延伸に向けた講演会企画についてです。これは平成30年度自治協提案事業としまして、健康寿命延伸に向けた講演会につき、第2部会が取り組むということで、事務局から講師や会場など、日程も含めまして調整状況について報告がありました。これは先ほど第1部会の報告がありましたように、1部会での企画、防災に関する講演会と時期を連動させて行うということで話し合いがありました。

また第2部会としては、このテーマにつきまして、本州東日本西区長サミットともつな

げていくという内容となっております。詳しい講師、テーマ等については、次回部会において審議することといたしました。主な概要は点線の中に書かれているとおりです。

4 番目です。今後取り組む地域課題について意見交換を行いました。少し時間が少なかったのですが、新たに行う意見交換ということがまとまらなかったのですが、前回部会において挙げられた「地域の支え合いについて」に関連し、除雪の事例について、再度話し合いを行いました。環境分野として除雪を行っている第1部会の審議状況も踏まえて、今後地域課題に掘り下げていこうという話し合いにはなりましたが、先ほど第1部会からの報告があったように、ハード面に関しては第1部会がやっているの、第2部会はそこではなくて、支え合いというキーワード。そして今回の異常な積雪というのは、すごく西区の住民の方にとっては、大変なことがたくさんあったと思いますが、その大変なことをチャンスとして生かして、みんなでいろいろな場でこれについて話し合いをして、助け合うとか、支え合うという思いを共感できるいい事例だったのではないかと話し合いが、第2部会では行われました。

なので、共有していくハード面の決まりとか、除雪の仕組みについて、第1部会と合同で学習会、知る機会が必要なのではないかと意見もありましたが、ちょっとそこについてはまだ何月の部会でやるとか、調整を取りながら進めていこうと思っています。

5 番目、次回の日程です。次回は4月12日、木曜日、午後3時より、4階対策室にて行われます。主な議題は、平成30年度健康寿命延伸に向けた講演会についてです。

続きまして、資料2に書かれている事業評価書をご覧ください。1枚目、めくりまして、第2部会で行った「幸齢いきいき講演会」の内容です。テーマ、目的、概要、実施実績等は書かれているとおりなので、あとでご覧ください。事業の評価についてですが、今回有効回答数が88%という大変高いものになりました。その中でも「大変参考になった・参考になった」ということが85.5%。そして一言感想的なコメント欄に、本当にいい講演会でありがたかった、感謝する。またもう一度こういったお話を聞きたいという肯定的なご意見もたくさんいただき、とても私たち第2部会のメンバーもやりがいがあった講演会の内容となっております。また坂井輪図書館との協力により、当日は「おでかけ図書館」も実施していただき、この講演の内容への理解の増進と、利用者の利便性の向上が図られたと感じております。

改善点としましては、引き続き地域課題を掘り下げ、実践のきっかけとなるような、実効性の向上につながる講演会を企画していく必要があるということで、30年度につなげていこうと思っています。

続きまして次のページです。スポーツ鬼ごっこ普及啓発事業です。これについても目的、事業実績は書かれているとおりなのでご覧ください。事業の評価としましては、とてもたくさんのお小生が参加してくれたということで、本当にCupという名前のおり、いい事業が行われたと思っています。またフレンドリーマッチも行いまして、そこに来ていた保護者、児童と一緒に体験するというのもできましたので、広げていくということに関しては、とても効果があったのではないかなと思っています。西区Cupの結果

をメディア、新聞等で掲載されたことにより、当日参加した子どもたちや保護者だけではなく、一般の方々にもスポーツ鬼ごっこの取り組みの周知が図られたと思っています。

改善点としましては、大会に参加した子どもたちからは、次回の開催をすごく期待する声が寄せられていました。終わった後も、来年はいつやるのですか、今回悔しかったので、来年また練習して頑張ってきたいということを言いながら帰って行った子どもたちがとても多かったので、今度は推進団体などの活動につなげていくことで考えていきたいと思っております。

(岩脇会長)

ありがとうございました。ただいまの第2部会の部会長の報告について、何か皆さん方、ご意見、ご質問等がございませんか。なければ第3部会、塩川部会長、お願いいたします。

(塩川委員)

第3部会を申し上げます。所管分野は農林水産業、商工業、交通等でございます。第11回会議の開催日時は平成30年3月9日、会場、出席者は記載のとおりでございます。主な議事といたしまして、1 平成29年度商店街等活性化研究・実践事業の事業評価について。商店街等活性化研究・実践事業については、事業評価書案の検討をまとめ、3月の本会へ提出することといたしました。委員から出された主な意見等は下記のとおりです。

2 今後取り組む地域課題について、意見交換をいたしました。新年度に検討や調査を深めるべき地域課題について、委員間で意見交換を行い、次回以降審議を深めていくこととしました。委員から出された主な意見は下記のとおりです。

3 その他ですが、農政商工課より内野商店街活性化ワーキングチームの会議概要について報告があり、ワーキングチームでは、内野の内外の人たちのふれあいを大事にするまちを目指すビジョンを据えて、活性化に向けた事業等が検討されていることを確認いたしました。

事業報告を申し上げます。4ページを見ていただきたいと思います。テーマ、目的、事業の実績は記載のとおりでございます。事業の評価に関して、評価、アンケートにおいても多くの好評と期待の声をいただいております。一層内容の充実を図り、継続することで効果的なPRにつながる。3年目の実施となるが、「初めて知り、県外の友人にも郵送した」等の声もいただいていることから、継続して発信し、さらなるPRを図っていく。カレンダーが区の特産物を食べることや、掲載地に訪れるきっかけとなったか検証できるよう、アンケート項目への追加等を検討する必要があります。

次、5ページです。テーマ、事業概要・目的、実施実績は記載のとおりです。事業評価でございます。新潟西商工会と連携し、飲食店のPRにもなるSNSを活用した割引提供といった好事例をつくることができ、新聞でも紹介されました。オープニングイベント当日は大雪等の悪天候に見舞われましたものの、協力飲食店からは「誘客につながった」「自店舗のPRとなった」等の喜びの声をいただくことができました。

改善点といたしましては、地域が主体となる活動を誘発するような仕組みを検討する必要がある。以上です。

あとは最後、開催日時を申し上げます。次回 30 年度第 1 回の開催は、平成 30 年 4 月 12 日、木曜日、午後 1 時 30 分から、当区役所 4 階対策室。議題としては、西区の特産物・観光地カレンダー事業について、ほかでございます。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの第 3 部会の報告と事業評価でございます。何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。なければプロジェクトチーム 1、鍋谷部会長、お願いします。

(鍋谷委員)

プロジェクトチーム 1 です。所管分野は当自治協議会の広報紙を編集・発行です。部会を開催した日時、会場、出席者はそこに記載のとおりです。主な議事、第 25 号の校正。それが本日出来上がりまして、3 月 31 日発行のものが皆さまのお手元に届いているかと思えます。1 面、29 年度から委員になられた方には、大変ご難儀をおかけしました。ありがとうございました。今回編集にあたりまして、色合いだとか活字とか再三業者とお話し合いをして出来上がったものです。1 面を見ますと、桜の開花が待たれるような色合いでございますが、また皆さまからご感想をお聞かせいただければありがたいと思えます。

2 番のその他でございます。次は 26 号に取りかからなければいけないので、それを準備したいと思えますし、またクロスワードパズルの応募のときにいただきました貴重なアンケートのご意見、これを次回検討してみたいと思っております。

次回部会は 4 月 16 日でございます。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、ご意見、ご質問等はございませんでしょうか。なければプロジェクトチーム 2、渡邊副部会長、お願いいたします。

(渡邊委員)

プロジェクトチーム 2 の報告をさせていただきます。所管分野は西区アートフェスティバルの企画・実施に関する事項でございます。第 11 回の会議を 3 月 9 日に行いました。出席者については記載のとおりでございます。内容、主な議事につきましては、第 5 回の西区アートフェスティバルの事業評価について、それから 2 点目が第 6 回の西区アートフェスティバルについてでございます。

第 5 回西区アートフェスティバルにつきましては、来場者アンケートを基に、事業評価書の案の検討をまとめまして、今回の本会で提出することといたしました。委員から出された意見等につきましては、点線の中に書かれているとおりです。

2点目の第6回の西区アートフェスティバルにつきましては、音楽・芸能部門については、出演団体候補について検討を行いまして、学校の出演団体候補について、事務局から順次打診をしていくことといたしました。それから公民館出演団体の数につきましては、公民館だけではなくて、コミュニティセンター等で活動している団体にも呼びかけを行っていくことといたしましたので、出演数を増やす方向で検討を進めることとしました。

アート部門につきましては、小学生の自由研究優秀作品展示とか、西区ふれあいカレンダーの写真展示などのほか、これまでなかった障がい者の作品展示についても検討することといたしまして、詳細については次回部会で検討することといたしました。

委員から出された主な意見としましては、障がい者の作品展示については、発表の場が少ないと聞いていまして、また障がい者は手元が器用な方も多いので、その強みを生かせる場所を提供できるのではないかという意見が出されました。

次に、事業評価でございますが、資料の2番目に書かれておりますが、テーマ・事業名、並びに事業目的・概要については記載のとおりです。実績ですが、来場者につきましては、延べ946人ということでした。第4回では840人でした。今回の第5回ですが、西区アートキャラバンとの連携で、アートクロッシングにいがた実行委員会に参画をいたしまして、流木アートや光の造形などの空間演出作品を、黒崎市民会館、坂井輪地区公民館、西新潟市民会館や、内野まちづくりセンターなどに巡回展示する西区アートキャラバンを実施したところでございます。

事業評価につきましては、このようなアンケート調査を行ってございますが、その中で「アートフェスティバルはいかがでしたか」という問いに対して「とても良かった」が60.9%、「まあまあ良かった」が23.6%、合わせて84.5%が良いと言ってくださいました。「普通」が4.2%、「やや不満」が0.4%の2件、「不満」が0.2%の1件ございました。

評価でございますが、5、6件ほどありますが、そのうち1～2件を申し上げますと、アンケート結果において、前回よりも若い世代の参加が進んでおりまして、幅広い世代の文化が一体となって楽しんでいただくことができたということです。それから西区アートキャラバンの実施によりまして、当日来場者だけではなくて、各地域の方々に西区のアートの魅力を発信することができたということです。それから最後ですが、運営スタッフの対応がよかったとの声もいただいております、来場者の満足度の向上につながったということでございます。

なお、改善点につきましては4点ほど書いてございますが、そのうちの開会あいさつやエンディングの最後まで来場者に楽しんでもらえるようなプログラムの構成あるいは緞帳のいわゆるタイミングですね。こういったことが今後検討する点であったということです。それから企画内容の充実と来場者数の増加とともに、今回は駐車場案内等の運営の工夫を検討していく必要があったのではないかとという点が改善点でいわれましたが、当日はご承知のとおり雨でございましたし、それから選挙も同時に同会場で実施されたということもありました。以上、事業評価についてご報告をさせていただきました。

なお、次回の開催日程につきましては、4月10日ということで、第6回の西区アートフ

フェスティバルについての議題ということでございます。以上でございます。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまのプロジェクトチーム2の報告でございます。ご意見、ご質問等がございませんでしょうか。それではなければ議事の(3)に入りたいと思います。議事(3)平成29年度 区自治協議会提案事業の事業評価についてです。それでは資料2をご覧ください。今報告した内容でございます。今ほどのおりでございます。今年度の事業について振り返っていただいたものでございます。特にご意見がなければ、原案のおり市民協働課に提出いたしますが、いかがいたしましょうか。坂井委員。

(坂井委員)

駄目だった意見ではなくて、各アンケートの意見で、非常に満足度が高くっていいことだなと思っています。前回のときに研修会で、他の政令指定都市と自治の部分の比較がありまして、全体会を毎月やっているというのは少ない、新潟ぐらいですし、まして部会も3つの部会、5つですか。毎月やっているというのは新潟だけでありまして、そういう意味でわれわれ自身が、私はあんまり新潟市をほめることはないのだけれども、われわれ自身が到達しているのは全国最先端の中で問題にぶつかっていると、そこはお互い努力しながら対抗していかなくてはいけないと思います。この評価も、参加している人なので、高いのは当たり前なのだけれども、8割から9割の人が良かったというアンケートはめずらしいのではないかと思うのです。そういう意味ではいろいろな改善点がありながら、お互いにこういうことを確信をもって次に行ければと思っています。

もう一つは、これはちょっと違う話です。さっき言いそびれたというか、除雪の問題で、私は今回部会にあまり出なくて、第2部会しか出なかったものですから、そのときお願いしたのですが、この度の雪の被害が西区全体でどんなふうになっていたのかということをお教えいただければと。私は小針に住んでいましたので、一番最初に金曜日に大堀通しかバスが通らなかったと聞いていて、有明線も西大通も旧116も通らなかったと聞いておりまして、2日目は新大の試験があるものだから、西大通だけ通したという話で、小新線がずっと4日も5日もずっと駄目だったというのは、小新はどこのことだろうと思ったら。うちの前を通っているバスだったのです。そういう意味で言うと、黒埼だとか、赤塚だとか、どんなだったのか。自分の住んでいる地域以外はよく分かりませんので、そんなことを教えていただきながら、すぐ考えてできる問題ではないかもしれないけれども、どんなふうにしていったらいいかという話し合う機会にできればいいなと思って、もしあればそういうことを建設課の人に教えていただければと思っています。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。建設課長お願いします。

(古俣建設課長)

説明というわけではないですが、第2部会からも除雪の話をいただいております。私は普段第2部会に出ていないものですから、一応出させていただいた上で、私から第2部会へも、今回の除雪の状況を含めて、意見交換なり、説明をさせていただきたいと思っておりますけれども、それでよろしいでしょうか。

(岩脇会長)

第1部会長と第2部会長、それで皆さん方で調整してまた示すと、こういうことでございますので、坂井委員。

(坂井委員)

分かりました。

(岩脇会長)

お願いいたします。他に何かございませんでしょうか。お願いします。どうぞ、木村委員お願いします。

(木村委員)

木村でございます。プロジェクトチーム2の報告の中の7ページで一番下、委員から出された主な意見等ということで記載されておりますが、障がい者の作品展示について発表の場が少ないというようなことが書かれていました。市長がいらしたときに、鍋谷委員が新潟市の健康福祉まつりの廃止のことについてお話があったと思われました。あそこの会場では、市内の各施設の入所者の人たちの作品展示とか作ったものが売られていたりして、8区の中でもかなり交流があったと私は思っています。そういうものがなくなって、また各区ごとにやるのか、それはまだはっきりおっしゃらなかったですけれども、こういう場を設けてあげるのも一つかなと。何かドッキングさせるなりして、施設の人たちの作られた作品の展示と、みんなのまつりと合併したものができるようになればいいなと思って、少しお話をさせていただきました。

(岩脇会長)

ありがとうございました。私も健康福祉まつりに行ってまいりました。木村委員と同じ意見でございます。担当の健康福祉課長は今言われましても、即答はできないと思いますので、これはまた私どもの第2部会に、たぶん黒埼になると思いますが、そこのホールの中でどういう使い勝手がいいのか、そういった方々の出展希望者があるのかないのかということで、担当課と一緒に前向きに議論いたしませんか。ということでよろしいでしょうか。ありがとうございました。他に何かございませんでしょうか。

なければ原案のとおり市民協働課に提出をお願いいたしたいと思っております。それでは事務

局、手続きをお願いいたします。ありがとうございます。

それでは次に報告事項に入りたいと思います。平成 29 年度第 2 回新潟市防災会議津波対策専門会議についてです。ここからは報告事項です。津波対策専門会議に当協議会から委員として出席している大谷一男委員からの報告をお願いいたします。

(大谷委員)

当日配布資料の 2 をご覧いただきたいと思います。3 月 13 日、市役所において、平成 29 年の第 2 回の新潟市防災会議津波対策専門会議がございましたので、その報告書でございます。報告書の冒頭が本日になっていますが、3 月 13 日の会議終了後、メールで報告し、後日資料を地域課に提出したという報告書です。

今年の協議は大きく分けまして (1) の新たな市津波ハザードマップに使用する浸水深の色分けについてと、それから (2) の同じハザードマップの基準水位 (せり上がり浸水深) の表示について、この 2 点にわたって協議をいたしました。細かい内容はそこに書いたとおりですが、添付資料を付けておりましたので、図面の 2 - 2 をご覧いただきたいと思います。津波の浸水深の色合いを、比較的淡い色になっておりますが、こちらの配色が国際標準となっている色合いだそうで、いわゆる国交省が定めた配色区分です。対照的に当初の段階は緑色とかそういう色枠があったのですが、そういう色は安心感を与えるということで、最終的に国交省の配色区分にしたということです。このほかに資料は浸水深の高さを示した安全評価、浸水深の高さに応じた資料もあるのですが、かなり資料が膨大になりますので、この図面だけ選ばせていただきました。

この図面は一応最終案として確定した図面になります。それから裏側に図面の 3 - 2 というこれが津波到達時間図ということになっていまして、赤・黄色・青という表示にしてございますが、これは言うなれば、信号機の赤・黄色・青の色合いに分けたということです。赤が発災から 3 分未満、黄色が 30~120 分未満、青が 120 分から約 7 日後という形で、図面は中央区を中心として西区も一部記載されておりますが、こういう図面で到達時間図が確定したということです。

それから赤の所に、白の網掛けが表示してございますが、こちらはいわゆるせり上がり、津波は勢いをなして建物にぶつかりますので、その際にせり上がり部分が高くなりますので、そうした記載を表す図面として白の網掛けをかけたということです。西区では海岸線の所をご覧いただきたいと思いますが、白抜きになっている部分が延々と海岸線につながっているということになっています。そのような形で図面を確定させていただいたということでございます。

(3) のその他の所を朗読する形で説明いたしますが、津波ハザードマップを検討するにあたって、いろいろ会議に出ていますと感ずることは、より高い所へ、より遠い所へ避難するということが非常に重要だと感じますので、そのように書かせていただきました。それから西区では海岸線が長くつながるために、津波到達時間図に示された赤色に、さらに白の網掛けで表示した地域、この辺はもちろんより注意度が高まる地域だということに

なろうかと思えます。

それから裏側にまいりまして、西川以南の地域、特に黒埼のほうですが、この地域は新川の堤防がまず陥没することによって浸水を受けるわけですが、それに追っかけて新川の所から津波が遡上すると、そういう影響が指摘されている地域として、この図3-2では新川の西川の南側部分から津波の影響を受ける地域になっているということです。

今回の専門会議で、津波ハザードマップ作成の最終方針が固まりましたので、今年の夏をめどに鋭意編集作業を進めるということで、具体的な市民への告知については、市のホームページと市報に加えて、市民の学習を考慮した津波避難地図ということで、さまざまな情報を書き込んだ内容のハザードマップが作成されて、いずれ配布されるということが市当局から説明がありましたので、いずれ皆さま方に届く形になろうかと思えますが、そんなことでとりあえずそのように津波対策専門会議はこの会をもって任務を終了したということでございます。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。津波対策の防災委員の報告でございます。今の報告について、何か皆さま分からない点が、ご質問等がございませんでしょうか。なければ4番報告事項の(2)平成30年度の西区の予算について、担当課より説明お願いいたします。

(真田副区長)

それでは皆さん、私から平成30年度の西区の主な取り組みについてご説明いたします。お手元の資料3をご覧ください。座って説明をさせていただきます。失礼します。それでは1ページ目の下のほうからご覧ください。西区の予算総額です。市役所から区に直接配分される予算総額は約38億382万円で前年度に比べて、約6,600万円の増額になっております。この主な理由に関しましては、西出張所分庁舎解体事業による増などがございます。

2ページ目をご覧ください。事業の説明に先立ちまして、西区のビジョンまちづくり計画に掲げます「目指す区のすがた」についてご説明いたします。西区では平成27年度から平成34年度までの8年間で、ご覧の5つの「目指す区のすがた」の実現を目指し、魅力的な西区のまちづくりに取り組んでまいります。2ページ目、下段をご覧ください。それではそれぞれの事業についてご説明いたします。

まず特色ある区づくり事業についてです。この事業は区独自の課題解決に向けた取り組み、区の魅力や特性を生かした取り組み、区民との協働による取り組みなどについて、区自治協議会のご意見をお伺いし、区において内容を決めることができる事業となっております。西区はご覧のとおり16事業で総額3,200万円となっております。本日は新規・拡充事業を中心に、主な事業を説明させていただきます。

3ページ目、上段をご覧ください。区ビジョン「人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち」の取り組みとしまして、乳幼児から高齢者まで健やかに生き生きとたくらしぶりに努めます。初めに「西区健康応援事業」です。生活習慣病予防や介護予防など区

民の皆さまの健康寿命を伸ばすことを目的に、多くの健康教室やイベントを開催し、いつまでも元気でより健康的な生活を送れるように支援を行います。具体的にはウォーキングやロコモ予防体操講座を行う「西区発！健康ステップアップチャレンジ（通称：にしチャレ）」を会場及び回数を増やして実施いたします。加えて栄養に関する講義や、歯科指導といった健康づくり教室、また生活習慣病予防講座も引き続き実施いたします。さらにご覧の事業のほか、血圧・血糖・脂質の全てが要所見であるハイリスク者への健康相談や、健診未受診者への受診の働きかけを進めてまいります。

3 ページ目、下段をご覧ください。「あんしん・ふれあい・ささえあい事業」です。高齢者や障がいをお持ちの方が住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、事業展開いたします。まず「支え合いのしくみづくり」について、区民の皆さまに理解してもらえらるための研修会を開催するとともに、「地域の茶の間バスツアー」も継続して実施いたします。

次に高齢者孤立防止訪問として、高齢者のみの世帯から一人暮らしになった方などを対象に保健師などが訪問し、孤立防止のための支援を継続してまいります。また小中学生向けの認知症サポーター養成講座を継続して開催するほか、高齢者虐待などにより、日常生活に支障のある方への支援として弁護士と相談契約を結びまして、高齢者の権利擁護にあたる体制の強化を継続して図ってまいります。加えまして、30 年度は障がいのある方による工作等の区民参加型サポートワークショップを開催することによりまして、障がいに対する理解を深めていただく取り組みを実施しております。

4 ページ目上段をご覧ください。「西区子育てサポート事業」です。子どもたちの各世代に対応した子育て支援講座を実施し、育児の不安や孤独感の軽減、仲間づくりを支援するとともに、子育て支援関係者の交流会を開催し、ネットワークの充実を図るなど、ご覧の取り組みにより西区の子育てをサポートします。

4 ページ目、下段をご覧ください。「西区安心安全推進事業」です。地域の自主的な取り組みを推進し、地域防災力を強化するため、地域の避難マップづくりや、避難所運営講習会への支援などを行います。具体的には地域の避難マップ作成を通して、避難所や避難経路、日ごろからの備えを確認してもらうほか、自主防災組織の結成促進、小中学校への防災訓練の支援などを進めます。また新たに地域が自主的に開催する避難所運営講習会の支援を行っています。あと実際の交通事故を再現した体験型交通安全教室を中学校で実施するほか、防犯啓発のため、「安心安全ネットワーク通信」を自治会、町内会に回覧し、犯罪の発生情報などをお知らせします。

5 ページ中段をご覧ください。区ビジョン「都市と農村が融合するまち」の取り組みとしまして、西区の魅力あふれる食と農を活用し、産業と地域の活性を推進します。初めに西区「西区農産物ブランド拡大支援事業」です。G I 登録された食と花の銘産品「くろさき茶豆」を活用して、商店街及び地域の活性化を目指すほか、新潟砂丘さつまいも「いもジェンヌ」の生産・消費拡大を推進します。具体的な取り組みとしまして、「くろさき茶豆」につきましては、「くろさき茶豆夏の陣」を開催し、一層の知名度の向上と商店街の活性化

を目指します。また「いもジェンヌ」では農商工連携協議会を通しまして、生産拡大や新たな加工商品の開発等に係る支援を行います。

5 ページ、下段をご覧ください。「西区の野菜まるかじり教育連携事業」です。区内の小学校と連携しまして、児童を対象に地元食材や農業を学び体験する多様な機会を提供することで、子どもたちへの食育と地場産の商品拡大を推進します。具体的な取り組みとしましては、区内の小学校から農産物の収穫体験や、料理講座、生産者講話の中から希望する講座を選択してもらい、授業の中で実施します。また学校給食への地場農産物の使用量拡大の取り組みも進めます。

6 ページ目、上段をご覧ください。「おいしい西区魅力発信事業」です。西区の農産物や耕作地域の魅力を県内外に発信し、また実際に訪れる機会を提供することで地場農産物のPRと消費拡大、生産者と消費者の交流を推進いたします。具体的な取り組みといたしましては、首都圏からの農業体験モニターツアーを実施するとか、農産物の販売促進活動やイベント等の機会を通じた地場農産物の魅力発信や、市民を対象とした農業体験教室を開催します。

6 ページ下段をご覧ください。区ビジョン「だれもが学び合える学術と文化のまち」の取り組みといたしまして、誰もがいつでも学び合える環境と学びを通して地域に貢献できる環境づくり、地域の文化や歴史を大切に、新たな文化の創造を支援するとともに、スポーツの振興を図ってまいります。はじめに、「探検、発見！！西区こども特派員」です。次代の西区を担う子どもたちに、外に出て、実体験として西区の特徴などを知ってもらい、区への理解と郷土愛を育んでもらいます。「佐潟」や「川の立体交差」など、いくつかのテーマで現地取材してもらうことで、子どもながらの視点を壁新聞にまとめてもらいます。またその壁新聞の中で区民の皆さんにも西区を知ってもらう機会を設けます。

7 ページ、上段をご覧ください。「西区スポーツ健康プロジェクト」です。区民の皆さまに、体を動かすことの楽しさを知ってもらいながら、運動・スポーツを継続して取り組むことができるようサポートします。また東京パラリンピックを見据えまして、障がい者スポーツの普及啓発を図るため体験教室を開催します。そのほかご覧の教室を開催し、区民同士の交流を推進するとともに、健康寿命の延伸に向けたきっかけづくりに取り組みます。

下段の区ビジョン「豊かな自然と快適な住環境を大切にするまち」での取り組みとして、河川や海岸など美しい景観を未来に引き継ぎ、また情報発信により交流人口を増やし活力あるまちを目指します。またうるおいのある快適な住環境づくりを進めてまいります。

はじめに、「未来につなぐきれいなまちづくり事業」です。ごみのない、きれいなまちづくりを推進するため、コミ協や関係団体と連携して、西区全域の環境美化活動に取り組みます。また小・中学生が環境について学び、考え、行動する機会を充実させ、未来を担う子どもたちの環境保全への関心と意識を育みます。

8 ページ目上段をご覧ください。「西区農地再生サポート事業」です。農業特区による特例農業法人の参入や若手農業者の取り組みなどで、一定の再生が進んでいる西区の耕作放棄地について、さらなる再生を進めるため、西区の振興作物の作付拡大や、農地の飛砂対

策と合わせた農地の再生を進めていきます。実施にあたりましては、農業関係団体で組織する西区農業振興協議会にご協力いただくこととしております。

下段、「げんきな保安林づくり」です。海岸保安林を保全し、環境整備を進めて、近隣住民の生活を守るとともに、市民の憩いの場として活用するため、ボランティア団体の育成・強化を図ります。具体的な取り組みとしては、保安林整備講座やボランティア団体の情報交換会の開催、また活動内容の区民への周知をおこないます。これらにより活動参加者の交流を深め、団体の育成強化を図るとともに、保安林保全活動への取り組みに対する支援を進めます。

9 ページ目、上段をご覧ください。「歩いてみつける！西区の宝おもてなし事業」です。西区内の観光資源を中心とした観光コースに加え、新たに佐潟周辺の砂丘地の地形や自然景観などをコースとすることで魅力アップを進め、交流人口の拡大を図ります。さらにこうしたコースをPRするため、赤塚・佐潟周辺地域のまち歩きマップを新たに作成します。

下段をご覧ください。区ビジョン「地域と区役所が共に歩むまち」での取り組みとして、区民と区役所が協働で地域課題に取り組む体制を進めるとともに、区役所は身近で信頼されるサービスを提供していきます。はじめに、「出動！西区地域盛り上げ隊（中学生みらいデザイン編）」です。次代を担う子どもたちが地域をよりよく知り、地域に関する関心を高めることを目的に、地域の課題解決の方法を考えるワークショップを開催します。30 年度は実施校を1校から2校に拡充し実施します。またワークショップ終了後、検討されたアイデアのうち実現可能な1つから2つのアイデアについて、地域と学校が共同で実施できるよう支援します。

10 ページ、上段をご覧ください。「西区PR大使（かがやき大使）事業」です。平成28年4月に西区出身の元タカラジェンヌ越乃リュウさんを「西区かがやき大使」に任命しました。30年度も引き続き区の事業への参加や西区の魅力の発信をお願いしてまいります。

下段をご覧ください。区づくり事業の最後になります「区自治協議会提案事業」です。地域課題の解決や地域活性化を図るため、西区自治協議会が自ら事業を企画し、実施していただくものです。皆さまからご議論いただき、ご提案をいただいた記載の6事業について、区役所も一体となって取り組むものです。

今までの説明が区づくり事業のご紹介でしたけれども、それ以外の主要事業について説明させていただきます。11 ページ上段をご覧ください。西区では飛砂により、区民の生活環境や国道402号線の安全な自動車走行に影響がでています。このため引き続き人工砂丘の設置などのほか、海岸管理者である国・県と一体となった飛砂対策や、これまでの対策の効果を検証し、効果的な飛砂対策を進めていきます。また資料はございませんが、これまで秋に実施してまいりました「ふれ！ふれ！西区ふれあいまつり」と冬に実施してまいりました「西っ子ふゆまつり」ですが、これを一つに合わせたイベントとして実施していきます。詳細につきましては、今後関係団体と協議し、子どもから大人までより多くの市民の方々から、各種の取り組みやまた多種多様なニュースポーツを体験していただくことから、体を動かすことを意識してもらい健康寿命の延伸を支援したいと考えています。

以上で平成 30 年度西区の主な事業についてを終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの西区の区づくり予算について、ご質問、ご意見等がございませんでしょうか。私がちょっと一つお聞きいたします。11 ページ。一般国道 40 号線飛砂対策事業は新潟大学と連携した、あるいはもういったん終わって、新たに事業として発生するのでしたか。継続でしたか。

(古俣建設課長)

建設課です。飛砂対策についてはそこに対策の検証と実施、これまでもやっておりますが、引き続き、新潟大学の先生等、あるいは関係機関を含めて、意見交換、検討を進めてまいりたいと考えています。よろしくお願いたします。

(岩協会長)

分かりました。継承ということで理解してよろしいのですね。分かりました。ありがとうございました。何かほかにご意見。大谷委員、お願いします。

(大谷委員)

第 1 部会の事業ともかかわるのですが、402 号線の飛砂対策については重点事業ですが、8 ページの農地の飛砂対策を含めた、西区の再生サポート事業新規事業 50 万とあるのですが、比較して農地の飛砂対策というのは、他にあるのかどうか分かりませんが、少しこちらは片手落ちのように思いますが、いかがでしょうか。

(鈴木農政商工課長)

農政商工課です。これは来年度、30 年度から新たに始めるもので、金額は試行ということもございますので、目的は飛砂対策もありますが、振興作物とか新たに農産物を増やしていくというものと、耕作放棄地の解消と、大きく 3 つの目的が書かれているのですが、新たに耕作放棄地で参入してくれる方に一定の補助を出すということなので、いきなり大きな面積も難しいということもございますので、とりあえず来年度試行させていただいて、これは全市的な耕作放棄地の問題もありますので、西区でという金額はこれぐらいでとりあえずスタートさせていただければと思っています。

(岩協会長)

よろしいでしょうか。では区長、お願いたします。

(笠原区長)

どうもお話いただきまして、ありがとうございました。ご承知のとおりまず一つの目的が耕作放棄地解消の経緯がございまして、申し上げますと、28年度末で西区内で耕作放棄地が68.4ヘクタールです。これは8区の中で一番大きい面積です。この事業の主眼として、まずはこの耕作放棄地を少しでも活用して、活力ある農業をするのと併せて、西区の特産物の生産拡大も図っていこうという、それが大きな視点でございまして。また今ほどご説明差し上げましたように、緑地化し飛砂を抑えていこうということで、補助金の制度を新たに設けまして、その推進を図っていくということで、新規で30年度から始めさせていただくものでございまして。新たに取り組ませていただきまして、その効果も見ながら、また今後さらなる施策を考えていきたいと思っております。

なお、今年度自治協さまのほうからご提案をいただきました402号の飛砂については予算2,000万円で人口砂丘の設置等を進めてまいりますし、赤塚の砂丘の飛砂につきましても、この辺も大学ともいろいろ意見交換をしながら、少しずつではございますが、前に進めていこうと考えております。どうもありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。ほかに何かご質問、ご意見等がございませんでしょうか。三富委員、お願いします。

(三富委員)

4ページの「安心安全推進事業」の中で、地域の避難マップ作成が出ていますが、これはいつごろまでに完成されて、一般市民にはいつごろ見せられるのでしょうか。これは今例えばインターネットで見れば分かるのでしょうか。もう一つは安全安心という意味を含めて、空き家が結構多くなっているのですが、それについては一切、個人の財産と言ってしまうと終わりなのですが、私どもとしてみれば、私どもも360軒あって、今18軒くらいの空き家があるのですが、困っているのです。お隣の家がねずみがいるとか猫がいるとか。そういうことについては、市はあまり関心がないのでしょうか。

(岩協会長)

担当課、お願いいたします。

(真田副区長)

地域の避難マップですが、こちらは先ほど津波の発生で話がありましたハザードマップとはまた別として、地域の住民の方がその地域のエリアに関しまして、避難所とか避難経路、また啓発情報なども、地域で話し合っただきながら、この地域についてのマップを作っていただく事業になっております。今まで参加が平成24年に3つの地域、26年が3

つの地域、27年が9地域、28年度が9地域、29年、今年度に関しましては9つ地域から作っていただけるような状態になっておりまして、ご希望を今年度お伺いして、来年度も以前作った地域がありますが、今回のハザードマップが出たことによって、前のままでいいかどうかということも含め、また地域の方と相談させていただきながらしていきたいという事業になっています。

特に空き家に関しましては法律がございまして、それに則って行うということで、基本的には本庁がメインでやっているのですが、ただご相談に関しましては、総務課の安心安全係で承っていますので、もしお困りの事案がございましたら、お声がけいただければと思います。よろしく願いいたします。

(岩脇会長)

ありがとうございます。ほかに何かございませんでしょうか。なければ時間もまいったようでございます。5番のその他でございます。委員の皆さま方からお知らせ、事務局から連絡はありますでしょうか。

(下川委員)

すみません。ちょっと時間をいただきまして、青山公民館で西新潟オープンカレッジというものを一昨年オープンしました。私も運営委員をやっている関係で、ぜひPRしてほしいと言われたのですが、4枚ほどチラシを入れました。1枚目は「写真で見る小針の昔」ということで3月13日から27日まで、1階のギャラリー、これは入場無料です。

それから次の茶色のものですが、オープンカレッジの公開講演会ということで、「良寛さんに学ぶ」。これは坂井輪コミュニティセンターで昨年11月に開催しまして、大変好評でして、またこのオープンカレッジでも取り上げたいということで、今度開催いたします。講師は元市長の長谷川義明さんです。全国の良寛会の会長をやっておられる方ですが、大変いい話をしていただけるので、ぜひ無料ですので、来ていただきたいですとと思います。

それから青色とピンク色と2枚、皆さまに差し上げていますが、2つの部を運営しているのですが、教養学部のほうは地域の方に少し勉強していただくようなことをテーマにしてやっていこうかなということでやっておりまして、上期は1回目が「新潟の妖怪と民俗」ということで開催いたします。新潟妖怪研究所の代表者が来てお話をしてくれます。あとは以下のとおりです。

それから地域学部のほうはご覧のとおり、「親鸞上人 越後の七不思議」や新潟開港と「新斥税館之図」ということで、これは新潟郷土史研究会の副会長をやっておられる方が来てくれます。ちょうど開港150年にあたるので、こういうテーマもいいのではないかとということで、計画をしております。通して受講していただきますと、半期で1,500円なのですが、このコースだけ受けたいという場合は1人500円をいただくことになります。これはお茶代とかいろいろなもの、講師代とかということでいただくことになりますので、よろしく願いいたします。

今日も先生が来て、実施したのですが、「芸術は難しくない」という題で、私も今日初めてお会いしたのですが、西区にはいっぱい著名人がいらっしゃるのです。洋画家であり、写真家である菅家令子さんという方に講演をしてもらったのですが、大変勉強になりました。これで美術館とかいろいろな所へ行っても、作品を見る視点ができたなということで、大変勉強になりました。そんなことがいろいろなことで役に立つことがあるのではないかと、計画してやっておりますので、ぜひ参加をしていただきたいなということをお願いしまして、貴重な時間をいただきまして、ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。興味のある方がおられましたら、参加申し込みをお願いしたいと思います。それでは事務局何かございますか。

(事務局)

それでは事務局からご連絡でございます。次回会議の開催日につきまして、ご連絡させていただきます。お手元の「平成 30 年度 西区自治協議会開催予定」、A 4、一枚ものをご覧ください。次回、平成 30 年度の第 1 回自治協議会の会議は、4 月 26 日、木曜日、午後 3 時から、会場はこちら西区役所健康センター棟 1 階大会議室となります。会議の議題等につきましては、運営会議と調整させていただきまして、改めて皆さまへご案内させていただきます。これ以降は広報紙となりますので、後ほどご覧ください。事務局からは以上でございます。

(岩協会長)

ありがとうございました。最後でございます。今月の 31 日付で委員を退任される嘉藤委員からごあいさつをお願いいたします。

(嘉藤委員)

新潟大学の嘉藤です。私は大学に入ってから地域の事業に興味を持っていて、大学学部生のころから大学院まで活動していたので、こちらに声をかけていただいて、とても勉強になりました。なかなか出席できない時期もあって、1 年がとても短かったのですが、1 年間ありがとうございました。(拍手)

(岩協会長)

ありがとうございました。嘉藤さん、いろいろとカレンダー等々でご協力いただきましてありがとうございました。それでは以上をもちまして今年度最後の西区自治協議会の全ての議事を終了させていただきます。本年度は活発なご議論、円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

(終了)